羽ノ浦中学校 人権通信 羽ばたき
No.6 2026年 10月8日 羽ノ浦中学校

人権授業参観・人権講演会

先日行われました人権授業参観・人権講演会には、多くの保護者の方にご参加いただきました。大変お世話になりました。各学級では、人権問題について共に学ぶ時間となりました。1年生は**「防災学習～誰もが安心して過ごせる避難所を考えよう～」**、2年生は**「ハンセン病回復者の人権について」**、3年生は**「日本人拉致問題について」**といったテーマで、それぞれの視点からしっかり学び、考え、意識を新たにできたと思います。私たち教職員も、生徒のみなさんの発言から学ぶことがたくさんあります。人権学習の根幹は、「課題を正しく知り、解決に向けて自ら行動すること」です。そのためには、互いに意見を交わし、より深く学ぶことが重要になります。学んだことはぜひ日常生活にも反映していきましょう。

また人権講演会では、少年犯罪被害者遺族の一井彩子さんをお招きし、「子供たちを被害者にも加害者にもしないために」というテーマでご講演いただきました。一井さんが私たちに伝えてくださった「誰もが加害者にならなければ、被害者は生まれない」という言葉、そして、「みなさんはどうか、生きてください」という言葉。これらに込められた意味を今一度、心に止めておきたいと思います。

- ○ こんなにも理不尽につらい思いをしなければいけない人がいることに驚きました。「加害者をつくらないことが、被害者をつくらないことにつながる」という言葉が頭に残りました。（生徒）
- ○ 命を大切にする方法は「人の気持ちを考えること」だと思います。「自分が嫌だと思うことはきっと相手も嫌だし、自分が痛いことは相手も痛いと考える」ということを忘れないようにしたいです。（生徒）
- ○ 自分の子どもと同じ被害者をなくすため、自分の人生をかけて訴えてくれたことに僕たちは向き合わなければいけないと思った。被害者をなくすためには、加害者をなくすこと。今の僕たちにできることは、こういった現状を知り、学び続けることだと思う。（生徒）
- ○ あまりにもひどい状況だったことに、悲しみ、怒り、許せないという感情が湧いてきました。また、少年犯罪の被害者とされる方々の中には高齢者の方もいました。私はそのことが忘れられません。（生徒）
- ○ あまりにも凄惨であったであろう当時の状況を想像すると、息が詰まり、うまく呼吸ができませんでした。我が子を亡くされた一井さんが、どんな思いで活動を続けているのか、思いを伝え続けているのかを考えると、「誰もが加害者にならなければ、被害者は生まれない」という言葉に尽きると感じます。受け取った私たちはこれを絶対に忘れてはいけません。「目の前の相手に思いやりをもって接すること」、「相手の気持ちを想像すること」を生徒の皆さんには忘れないで欲しいし、私自身も意識し続けようと、改めて感じました。（教員）

お子さまが人権ファイルを持ち帰ります。前期の学習内容についてぜひ、ご覧ください。
そして、学びについて保護者のみなさまにもご感想をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。